

水質の保全と「豊かな海」の両立に向けた社会実験について

1 背景

伊勢湾（三河湾を含む。）において、窒素・りん的环境基準達成率は向上しているが、栄養塩類濃度の低下による水産資源（アサリ、ノリ）への影響が指摘されている。こうした状況の中で、本県として、愛知県漁業協同組合連合会からの要請も踏まえ、水質や水産資源への影響に係る監視・調査・評価体制を整え、「水質の保全と『豊かな海』の両立に向けた社会実験」を実施している。

2 社会実験概要

- ・ 矢作川・豊川浄化センターに係る総量規制基準を、期間を限定して緩和し、放流水中の窒素・りん濃度を増加させ放流
- ・ 水質等についてモニタリングし、環境への悪影響が見られた場合中断することを前提に実施
- ・ 愛知県栄養塩管理検討会議で効果・影響を検証（2024年2月に中間報告を実施、6月に総括を予定）

【対象施設】

矢作川浄化センター、豊川浄化センター

【社会実験期間】

2022年度：11～3月、2023年度：9～3月

【放流上限濃度】

窒素：20mg/L、りん：2mg/L

【中断条件】

- ・ 極度の赤潮の発生継続
- ・ モニタリング地点において、全窒素・全りん濃度が2か月連続して各月の過去10年間（2012～2021年）における最大値を超過

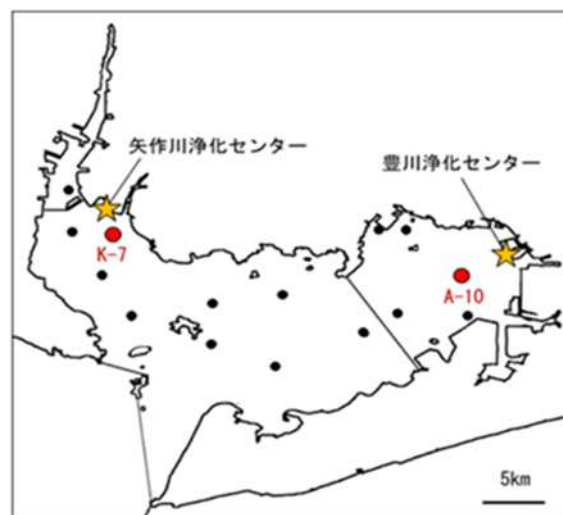


図 社会実験実施浄化センターとモニタリング地点位置図

3 2022年度結果概要

- ・ 社会実験期間の平均放流濃度は、窒素：約11mg/L、りん：約1.3mg/L。
- ・ 放流口の近くに設けた調査点では、アサリ・ノリに効果があったと考えられた。
- ・ 放流口から数km離れたモニタリング地点の全窒素・全りん濃度は、いずれも過去10年の平均と大きな差はなかった。また、当該地点の全窒素・全りん濃度は、過去10年間の各月最大値を超過することはなかった。なお、期間中極度の赤潮は確認されなかった。（別添の第2回栄養塩管理検討会議資料を参照）